

## JOMF 派遣医師便り (2015. 7)

### ◆マニラ◆

## 脳内出血とマニラの救急車事情

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

今日は街で救急現場に遭遇した経験を通し、マニラの救急車事情について述べます。

2015年某日、マニラの高層ビルの前で人が倒れていました。交通事故ではないようです。近くにいたガードマンが「倒れるところは見えない、交通事故ではない、名前はわからない、地域の公共救急車をすでに30分くらい前に呼んだ」と話してくれました。また周囲の人は「炎天下を歩いていたらため熱中症で倒れたんだろう」と説明してくれました。

患者さんはフィリピン人男性、40才くらいの肥満体型。服は汗でびしょり濡れていた。近寄って観察する。呼吸はしている・不整なし・遅くない。強く呼びかけるとようやく開眼する。橈骨動脈に左右差なく強く触知する・脈は速い。皮膚蒼白なし・冷感なし。活動性外出血なし。頸静脈の怒張なく周囲に皮下気腫なし。瞳孔に左右差なく縮瞳なし・右共同偏視を認める。名前を聞いても返事はない、タガログ語でないと通じないのかと思い再度タガログ語で聞いたがやはり返事はない。「アーウー」と意味不明な単語を言いながら顔をしかめて右手で頭を押さえている。“頭が痛い”と訴えている様子。左側の上肢を拳上させると“だらり”と落ちてしまう。右下肢は自分で膝を立てているが左下肢はだらんと垂れている。左側上下肢完全麻痺だ。意識レベルは Glasgow Coma Scale :Eye (3)-Verbal (2)-Motor (5)。

「右脳内出血 (右被殻出血)」を疑う。

呼吸・循環を再度確認する、呼吸不整は無く12/分。橈骨動脈触知良好・脈拍100/分・不整はなく徐脈にはなっていない。経過中に痙攣はない。

救急車のサイレンが間近で聞こえますがなかなか到着しません。夕方7時、最も渋滞の激しい時間帯です。歩いたほうが速いくらいです。非常に歯がゆいですが、マニラでは救急車がサイレンを鳴らして走ってもなかなか道を譲ってくれません。

患者さんが吐きそうな仕草を見せてきました。周囲の人たちに手伝ってもらい、窒息予防のため体位をリカバリーポジションにして救急車を待ちました。患者さんが倒れてから約40分後ようやく救急車が到着しましたが、その救急車内には医療器具は殆ど装備されていません。車内から降りてきた救急隊員二人に患者さんの病態を申し送り、患者さんを救急車に搬入し、容態の回復を祈りました。

後日、搬送された病院の話では「右脳内出血」とのことでした。

平成 26 年度総務省消防庁の報告では日本の救急車は覚知（119 番通報）から現場到着まで平均で 8.5 分です。一方マニラでは救急システムや交通事情の問題で救急車が現場到着するまでに非常に時間がかかります。緊急であるからこそその救急車要請です。スムーズな救急車搬送形態がつけられる必要があります。

皆様お体大切にしてください。